



2020年10月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年9月11日

上場会社名 株式会社 オービス

上場取引所 東

コード番号 7827 URL <http://www.orvis.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中浜 勇治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 井上 清輝

TEL 084-934-2621

四半期報告書提出予定日 2020年9月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年10月期第3四半期の業績(2019年11月1日～2020年7月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年10月期第3四半期	6,779	4.2	269	1,024.0	221		130	60.7
2019年10月期第3四半期	7,077	15.7	23		25		333	46.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年10月期第3四半期	75.52	
2019年10月期第3四半期	192.47	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年10月期第3四半期	14,452	3,659	25.3	2,106.56
2019年10月期	14,402	3,567	24.8	2,060.93

(参考)自己資本 2020年10月期第3四半期 3,659百万円 2019年10月期 3,567百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年10月期		0.00		20.00	20.00
2020年10月期		0.00			
2020年10月期(予想)				20.00	20.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年10月期の業績予想(2019年11月1日～2020年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,248	7.1	426	409.2	361	1,714.0	288	26.7	166.96

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年10月期3Q	1,738,596 株	2019年10月期	1,732,000 株
期末自己株式数	2020年10月期3Q	1,178 株	2019年10月期	1,178 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年10月期3Q	1,734,289 株	2019年10月期3Q	1,730,897 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき算定した見通しであり、今後の経済情勢の変化及び様々な要因によって、実際の業績は予想値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定等につきましては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
（1）経営成績に関する説明	2
（2）財政状態に関する説明	3
（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
（1）四半期貸借対照表	4
（2）四半期損益計算書	6
（3）四半期財務諸表に関する注記事項	7
（追加情報）	7
（継続企業の前提に関する注記）	7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	7
（セグメント情報等）	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（2019年11月1日～2020年7月31日）のわが国経済は、雇用情勢や所得環境の改善を背景に景気は緩やかな回復基調で推移していたものの、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令を機に個人消費や輸出が大きく減少し、実質四半期GDP（4月～6月）速報値の成長率が前期比7.8%減（年換算27.8%減）と3期連続のマイナス成長となるなど、景気は急速かつ大幅な後退局面となりました。現在は緊急事態宣言の解除を受けて、経済活動レベルを段階的に引き上げておりますが、回復に向けた動きは鈍く、感染拡大の第2波が懸念される状況下にあります。

このような環境のもと、当社は「中期経営計画チャレンジ110（イチイチゼロ）」（2019年11月～2022年10月）の初年度となる今年度は、成長戦略の一層の進展を加速させ、中核事業である木材事業の通期営業黒字化を必達目標として掲げ、業績の立て直しを図る基盤整備の1年といたしております。

その結果、売上高は67億79百万円（前年同四半期比95.8%）、営業利益は2億69百万円（前年同四半期比1,124.0%）、経常利益は2億21百万円（前年同四半期は経常損失25百万円）、四半期純利益は前年同四半期に発生した固定資産売却益2億61百万円及び補助金収入1億62百万円の反動減により1億30百万円（前年同四半期比39.3%）となりました。これにより、純資産は前事業年度末の35億67百万円から36億59百万円となり、自己資本比率は24.8%から25.3%となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。営業損益につきましては、全社費用等配分前で記載しております。

(木材事業)

梱包用材等の受注環境は、米中貿易戦争や新型コロナウイルス感染拡大の影響により、基幹産業である自動車・鉄鋼関連を中心とした輸出梱包向けの出荷が大幅に減少するなど、先行きが見通せない大変厳しい事業環境で推移いたしました。

このような環境のもと、業界のリーディングカンパニーとしての広範な販売網を生かし、小口配送及び即納体制で供給できる強みを最大限発揮するなど、きめ細かな営業活動を通じ、お客様ニーズの取り込みに注力するとともに、梱包用材等以外の新たな分野として海外向けエクステリア材としての販路開拓に尽力してまいりました。また、福山工場の機械オペレーションは、製材工員の育成によるノウハウの蓄積や業務習熟度の向上によって、時間当たりの生産効率は一段と高まってまいりました。

その結果、売上高は39億75百万円（前年同四半期比95.2%）、営業利益は20百万円（前年同四半期は営業損失1億59百万円）と2018年6月の福山工場稼働後初めて営業黒字を計上いたしました。

(ハウス・エコ事業)

新型コロナウイルス感染拡大の影響による経済活動の抑制から業者間の受注競争が激化し、慢性的な労働力不足や原材料費の高騰等による採算性の低下など、依然として厳しい事業環境が続いております。

このような環境のもと、専門的知識・経験を持った即戦力の中途採用を積極的に行うなど、人材の確保に努め、その育成に注力するとともに、施工体制の強化、施工効率の改善及び工種毎における原価管理の徹底等の取り組みにより粗利益率は大幅に改善いたしました。また、鉄骨製作工場認定制度に基づくMグレードの資格取得に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、今後の受注獲得に向けた新技術や製品開発を積極的に推進し、技術及び品質において更に高い評価をいただける集団づくりに取り組んでまいりました。

その結果、売上高は21億32百万円（前年同四半期比98.8%）、営業利益は2億29百万円（前年同四半期比168.4%）となりました。

(太陽光発電売電事業)

主な設置場所である中国地方の梅雨入り時期が例年に比べ約2週間早く長雨が続いたことと相まって、売電量は僅かながら前年同四半期を下回りましたが、減価償却負担減により利益は増加いたしました。

その結果、売上高は3億39百万円（前年同四半期比99.4%）、営業利益は1億75百万円（前年同四半期比111.2%）となりました。

（ライフクリエイト事業）

ゴルフ場部門では、例年になく冬季の降雪も少なく天候に恵まれ、良好なコースコンディションを維持してまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響による外出自粛に加え、人やモノの移動制限によって来場者数は大幅に減少いたしました。

フィットネス部門では、近郊において24時間型フィットネスジムの新規出店が相次いだことに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、営業規模縮小や臨時休館などの対応を余儀なくされました。

その結果、売上高は2億62百万円（前年同四半期比79.6%）、営業損失は2百万円（前年同四半期は営業利益28百万円）となりました。

（不動産事業）

賃貸物件の定期的な保守メンテナンス及び住宅設備機器の更新を行うことで入居率及び定着率の向上を図ってまいりました。

その結果、売上高は68百万円（前年同四半期比98.8%）、営業利益は45百万円（前年同四半期比106.5%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期会計期間末の総資産につきましては、前事業年度末と比較して49百万円増加し144億52百万円となりました。その主な要因は現金及び預金が1億71百万円、リース未収入金が4億38百万円、未成工事支出金が1億16百万円、その他（流動資産）が1億8百万円それぞれ増加し、受取手形及び売掛金が2億38百万円、原材料及び貯蔵品が2億36百万円、機械装置及び運搬具が3億45百万円それぞれ減少したことによるものであります。

（負債）

当第3四半期会計期間末の負債につきましては、前事業年度末と比較して42百万円減少し107億92百万円となりました。その主な要因は工事未払金が1億46百万円、1年内返済予定の長期借入金が1億20百万円、その他（流動負債）が2億2百万円それぞれ増加し、短期借入金が2億20百万円、長期借入金が2億26百万円それぞれ減少したことによるものであります。

（純資産）

当第3四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末と比較して92百万円増加し36億59百万円となりました。その主な要因は利益剰余金が96百万円増加したことによるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年10月期の業績予想につきましては、2019年12月13日の「2019年10月期決算短信〔日本基準〕（非連結）」において公表した業績予想値に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年10月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	436,569	608,285
受取手形及び売掛金	1,504,221	1,265,458
電子記録債権	48,072	107,916
完成工事未収入金	1,798,991	1,788,187
リース未収入金	1,001,400	1,440,279
商品及び製品	96,424	125,409
仕掛品	55,822	110,541
未成工事支出金	51,462	167,750
原材料及び貯蔵品	480,524	244,189
その他	123,374	231,692
貸倒引当金	△594	△439
流動資産合計	5,596,269	6,089,271
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,684,827	1,607,653
機械装置及び運搬具（純額）	3,491,376	3,145,855
土地	3,042,051	3,042,051
建設仮勘定	2,141	42,598
その他（純額）	348,522	351,489
有形固定資産合計	8,568,919	8,189,648
無形固定資産	56,374	50,232
投資その他の資産		
投資有価証券	65,130	54,846
その他	117,869	70,363
貸倒引当金	△1,831	△1,733
投資その他の資産合計	181,169	123,476
固定資産合計	8,806,463	8,363,357
資産合計	14,402,733	14,452,628

（単位：千円）

	前事業年度 (2019年10月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年7月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	727,151	689,170
工事未払金	233,565	379,952
短期借入金	825,000	605,000
1年内返済予定の長期借入金	1,079,045	1,199,971
未払法人税等	10,141	51,646
賞与引当金	55,224	29,180
完成工事補償引当金	76	55
その他	1,008,412	1,210,475
流動負債合計	3,938,615	4,165,451
固定負債		
長期借入金	6,353,233	6,126,448
退職給付引当金	135,225	128,121
役員退職慰労引当金	50,769	—
資産除去債務	7,837	7,883
その他	349,950	364,743
固定負債合計	6,897,016	6,627,197
負債合計	10,835,631	10,792,648
純資産の部		
株主資本		
資本金	684,980	688,390
資本剰余金	512,980	516,390
利益剰余金	2,359,710	2,456,068
自己株式	△1,094	△1,094
株主資本合計	3,556,575	3,659,754
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10,172	1,035
繰延ヘッジ損益	353	△809
評価・換算差額等合計	10,526	225
純資産合計	3,567,101	3,659,979
負債純資産合計	14,402,733	14,452,628

(2) 四半期損益計算書
第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2018年11月1日 至2019年7月31日)	当第3四半期累計期間 (自2019年11月1日 至2020年7月31日)
売上高	7,077,798	6,779,286
売上原価	6,129,796	5,613,459
売上総利益	948,002	1,165,826
販売費及び一般管理費	924,048	896,589
営業利益	23,953	269,237
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	1,446	1,666
仕入割引	953	637
受取賃貸料	3,600	3,600
その他	6,858	5,558
営業外収益合計	12,864	11,468
営業外費用		
支払利息	50,084	44,709
その他	12,505	14,154
営業外費用合計	62,590	58,863
経常利益又は経常損失(△)	△25,772	221,842
特別利益		
固定資産売却益	261,476	104
役員退職慰労引当金戻入額	8,041	—
補助金収入	162,907	—
特別利益合計	432,425	104
税引前四半期純利益	406,652	221,946
法人税、住民税及び事業税	48,427	38,081
法人税等調整額	25,073	52,889
法人税等合計	73,501	90,971
四半期純利益	333,151	130,975

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(追加情報)

当第3四半期累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)	
(役員退職慰労金制度の廃止) 当社は、2020年1月30日開催の第60期定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴う退職慰労金の打切り支給を決議いたしました。 これに伴い、「役員退職慰労引当金」を全額取崩し、打切り支給額の未払分60,093千円を「長期未払金」として固定負債の「その他」に含めて表示しております。	
(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り) 新型コロナウイルス感染症の影響は、感染拡大前の水準まで需要が回復するには相当期間を要することから、翌会計年度にも当該影響は継続し、感染拡大前の水準に戻るのには2021年11月1日以降開始する会計年度と仮定した上で、固定資産の減損の認識要否の判定、繰延税金資産の回収可能性などの会計上の見積りを行っております。 なお、見積りに用いた仮定は不確実性が高く、新型コロナウイルスの感染が拡大し、経済への影響がより一層深刻化、長期化した場合、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。	

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					
	木材事業 (千円)	ハウス・ エコ事業 (千円)	太陽光発電 売電事業 (千円)	ライフ クリエイト 事業 (千円)	不動産事業 (千円)	合計 (千円)
売上高						
外部顧客への売上高	4,177,596	2,158,644	341,825	330,255	69,477	7,077,798
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,177,596	2,158,644	341,825	330,255	69,477	7,077,798
セグメント利益又は損失(△)	△159,890	136,100	157,519	28,301	42,621	204,651

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	204,651
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△180,698
四半期損益計算書の営業利益	23,953

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ 当第3四半期累計期間（自 2019年11月1日 至 2020年7月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					
	木材事業 (千円)	ハウス・ エコ事業 (千円)	太陽光発電 売電事業 (千円)	ライフ クリエイト 事業 (千円)	不動産事業 (千円)	合計 (千円)
売上高						
外部顧客への売上高	3,975,470	2,132,412	339,774	262,980	68,649	6,779,286
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,975,470	2,132,412	339,774	262,980	68,649	6,779,286
セグメント利益又は損失(△)	20,335	229,200	175,084	△2,665	45,376	467,333

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	467,333
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△198,095
四半期損益計算書の営業利益	269,237

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。